

家族での団欒を活性化するための子どもの日セット

Children's Day set to activate the pleasure of home life in families

指導教員 比留間真

研究協力者 富樫達矢

1) サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 空間・工業意匠研究室

キーワード：団欒・家族・食器・子どもの日

1.研究目的

家族全員が揃う時間が減少しているほか、家族の団らんも減少している。実際に私の家族では、帰る時間が遅く一日の共有する時間が減少しつつあり、食事の時間も乱れているなどで、団欒の時間が減ってきてている。

本研究は子どもの日という伝統文化を元にイベントを用いて家族での団欒の時間を作り出すことで家族の時間を増やすことを目的とする。

2.調査内容

2.1世間の団欒への考え方についての調査

象印の「家族そろっての行動に関する調査」から、首都圏の小中学生の子供を2人以上持つ家庭の主婦300人を対象に実施データの分析を行った。結果は図1のように「かなり少ないが34.3%」、「やや少ないが21.3%」と半数の主婦が「少ない」と感じていることが分かった。

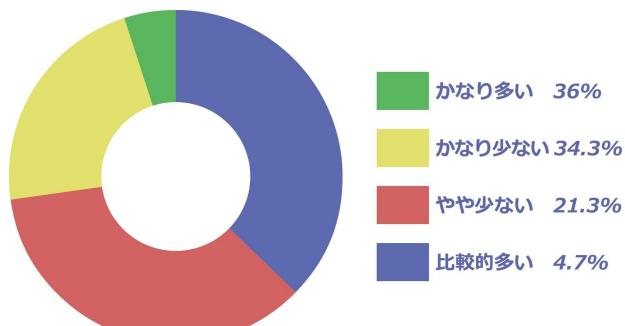


図1世間の団欒への考え方についての調査

2.2団欒が必要な年齢

内閣府の「平成20年版青少年白書、家庭及び地域をめぐる状況の変化」から12歳から18歳の調査データの調査を行った。

その結果、労働時間の増加に伴う子供との接触時間の減少、子どもの悩みについて「知らない」、「あまり知らない」など、家庭を取り巻く環境の変化が子供にとって好ましくない状況の背景となっていることが分かった。

このことから団欒を必要としているのは12歳から18歳の子供であるということが分かった。

2.3家族を感じる時間についての調査

家族がどのようなシーンで幸せ、絆を感じるか調

査を行った。

株式会社ジェーシービーが、調査した全国の20歳から69歳の子どもがいる既婚男女1000名を対象に行ったアンケートによると、かけがえのない日常の幸せを感じる時は「家族と食事しているときが57.3%」、家族の絆を感じる時は「家族そろって食事をしているとき40.7%」とどちらも食事と答える人が多いことが分かった。

このことから家族を感じる時間は、食事をしている時だと分かった。

2.4子どもの日の歴史

「5月5日は端午の節句」という認識が今もあるかも知れませんが、制定後60年が過ぎた現代では男女関係なく子どもの幸せを願う日として定着していった。

元々は女性のための行事として行われ、日本では田植えの月として、日本古来の伝統行事が行なわれていました。田植えは神聖な行事であったため、若くて清らかな女性が体を清めるための儀式とされ、古代中国では、雨季が始まる5月は病気や災厄の月とされ、5月5日には菖蒲や蓮でお祓いがされていた。この2つの伝統行事が融合され、田植えの前に女性が菖蒲酒で体を清め、邪気を払うという行事が始まりました。これが子どもの日の始まりです。

鎌倉時代から武士社会により男性中心の日として定着していき、女性のためのお祭りから、男の子を祝うお祭りへと変わっていました。

子どもの日には、「5月5日は端午の節句」という認識が今もあるが、「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」という文言があることから、今では、子どもの日に男の子を祝うのではなく、制定後60年が過ぎた現代では男女関係なく子どもの幸せを願う日として定着していった。

2.5行事食

子どもの日は元々、男の子の誕生や成長を祝っていたことから、今もその名残で出世魚であるスズキやブリの魚を食べるのがよいとされている。また、カツオも勝男に通じることから端午の節句には欠かせない料理として、今も子どもの日にカツオを吃るのがよいと言われている。

また、子どもの日には、粽（ちまき）と柏餅を食べている。

粽は中国から伝來した食べ物で、端午の節句の発祥に深く関わりがある食べ物ある。これとは逆に柏餅は、日本で食べられてきた物で、厄除けの力があると言われて来た。

2.6行事の祝い方

古くから子どもの日に薬効として菖蒲湯につかったり、軒にさして邪気祓いをする習慣がありますが、武家社会の武を尊ぶ「尚武・しょうぶ」という言葉にかけて男の子の健やかな成長を願い、鎧兜や武者人形などの五月人形を飾り、出世を願う鯉のぼりを立ててお祝いをする。

現在では、家の中に飾る「内飾り」と、家の外に飾る「外飾り」の二つがある。

内飾りの五月人形には鎧飾りや兜飾りを中心に、武者人形や弓や太刀などの陣道具、屏風などがあり、一般的には三段飾りとなっている。お供え物には菖蒲酒や柏餅、ちまきなどを用意します。

外飾りには立身出世を願い、鯉のぼりや幟を掲げます。江戸時代に生まれた今の鯉のぼりの形ですが、近年では女の子の色の鯉のぼりや、家族人数分を飾るところも見られる。

3.コンセプト

「団欒の中で家族を深めることの日」

- ・一緒に学び一緒に楽しむ
- ・日常の生活空間に馴染むこと

ターゲットは12歳から18歳の子供がいる家族を対象に、子どもの日や食べ物の意味を親と子供と一緒に学び、一緒に準備をし祝うことで、団欒を深める事が出来ると考えた。

4.提案物

- ・一緒に学び一緒に楽しむ

子どもの日を祝うための食器と、子どもの日の歴史や食べ物の意味をまとめたハンドブックと一緒にまとめて収納できるセットを提案する。

パッケージにすることで収納しやすくし、運びやすくなる、また日々の食生活にも取り入れやすくなる用に持ち運びのしやすいものとする。食器は箸、皿、湯のみを用意する。

実際に使用しているイメージは、親子共同で食事の準備をし、食事中に親から子へハンドブックを用いて子どもの日の歴史や食べ物の意味を伝えることで団欒を増やすことができるものとする。

食事は生活では欠かせないものであり受け入れやすいと考えたため、行事として取り入れやすく、継続しやすいものになると考える。

- ・日常の生活空間に馴染むこと

リビングで使用することを前提に、収納された状態でもインテリアとして日常生活に馴染むよう、見た目や素材に配慮し、尚且つ、子どもの日を連想させるようなビジュアルにする。

5.今後の展開

4の項目を踏まえて、更に調査・実験を行った結果、新たに判明した部分は自身の提案に盛り込み、より社会手に効果的なものとなるよう改良を行っていく。

参考文献

象印：家族揃っての行動に関する調査，

<https://www.zojirushi.co.jp/topics/koudou.html>,2017,5,8

All About：子どもの日/端午の節句、鯉のぼり・五月人形の由来，

<https://allabout.co.jp/gm/gc/220750/>,2017,8,25

ニューストップコラム：今どき家族が「絆を感じる瞬間」1位は●●しているときだった，

http://www.excite.co.jp/News/woman_clm/20150818/Womaninsight_58019.html,2017,10,2

平成20年版青少年白書：家庭をめぐる状況，

http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h20honpen.html/html/toku_2_1.html,2017,10,8